

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 29 年度第 1 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 29 年 5 月 24 日 (水)		
開催場所	小金井市中間処理場事務所棟 研修室 I		
出席者	委員	<出席者：13 名> 渡辺会長・岡山副会長・岸野委員・林委員・多田委員・黒須委員・齋藤委員・石田委員・北澤委員・杉本委員・吉田委員・山田委員・清水委員 <欠席者：2 名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・高田・信岡・前坂・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	2
会議次第	1 開 会 2 報 告 燃やすごみ処理量の昨年度との月別比較について 平成 28 及び 29 年度可燃ごみ処理の支援状況について 平成 29 年度一般廃棄物処理計画について 3 議 題 清掃関連施設整備基本計画検討会議への委員の選出について 平成 28 年度施策の実績報告について		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 29 年 7 月 4 日 (火) 小金井市中間処理場事務所棟 研修室 I		

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>それでは、平成29年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日は大江委員と波多野委員から欠席の連絡が入っている。</p> <p>それでは、事務局から配布資料について説明をお願いしたい。</p>
玉井減量推進係主任	<p>(配布資料確認)</p> <p>(職員紹介)</p> <p>(配布資料説明)</p>
佐藤ごみ処理施設担当 専任主査	<p>(広域支援状況説明)</p>
渡辺会長	<p>今年度も市長の諮問に応じて、平成30年度一般廃棄物処理計画を審議・答申することになるので、宜しくをお願いしたい。</p> <p>大江委員だが、清掃関連施設整備基本計画検討会議委員を辞され、また、本廃棄物減量等推進審議会を一時休みたいとの申し入れがあった。よって、この審議会から新たに検討会議委員を選出する必要が生じた。</p> <p>また、私も一身上の都合により7月末をもって審議会委員を辞任することになった。よって、岡山副会長に会長職を引き継いで頂こうと考えている。</p> <p>では、検討会議への委員選出について、事務局から説明と選出をお願いしたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>7月以降の体制だが、新たに学識経験者の方と調整させて頂いているところだ。</p> <p>検討会議の大江委員の後任だが、清掃関連施設整備基本計画検討会議設置要綱では学識経験者2人以内となっており、うち1人を本審議会から選出いただきたい。廃棄物に関する専門的な見識を持って、本市の廃棄物行政に尽力して頂き、本市以外でも様々な計画策定に携わってこられた経験のある岡山副会長に就任して頂けたらと考えている。皆さんに了承して頂きたい。</p> <p>(了承)</p>
渡辺会長	<p>それでは、岡山副会長にご挨拶をお願いしたい。</p>
岡山副会長	<p>(挨拶)</p>

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	それでは、議題の「平成28年度施策の実績報告について」に移りたい。説明を事務局にお願いする。
玉井減量推進係主任	(記入要領説明)
渡辺会長	行政側でそれぞれの施策の進捗度合いなどについて評価し、審議会では、計画項目と取組内容について評価する。取組内容については進捗度合いと有効性について評価する必要がある。記入様式や評価方法に関して、今月末までに皆さんのご意見を頂いて、それを元に6月上旬にフォーマットを確定。1週間から10日で記入して頂いて、その結果を皆さんに戻して、6月末にその結果について審議会で意見交換する予定だ。
小野ごみ対策課長	配布資料の「平成27年度施策の実績報告」をご覧頂きたい。3ページ目の「施策について」の部分の表は、ごみ対策課が自己評価をしたものだ。事務局が行った自己評価に基づき委員の皆さまに評価していただくという、そのツールになるものである。
石田委員	点数の付け方について伺いたい。悩むのだが、例えば進捗で見たときに100パーセント達成したら評価が3なのか、4もしくは5なのかという見方が分からない。予定の何倍も達成したことを評価するなら4、5とする考え方になるが、予定をきっちりやれば良いという考え方なら100パーセントやれば5という評価があっても良い。どう見れば良いか。
小野ごみ対策課長	数をこなせば評価が高くなるのか、それとも数をこなした上で、実際に効果があったところで評価するのかは、以前も審議会で相当議論になったが、結論が出ていない。評価の仕方が非常に難しいという議論で終わっている。今回は2回目の自己評価になる。事務局としても未だ完成度の高い評価方法ではないと認識している。今回の配布資料をご覧いただき、ご意見等があったら5月31日までに頂きたいと思う。
渡辺会長	基準が分からないと、どのように評価していいか悩みどころになる。
石田委員	一般的に企業がやる場合は、3が平均で、4、5というのは売

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>り上げが何倍も上がる等の場合があると思う。しかし、行政がやる場合は、100パーセントできれば5にしても良いのではないかと個人的には思う。ただし、それが皆さんの評価のコンセンサスになるのかは分からないため、お訊きした次第である。極端に言えば、行政は予算以上のお金を使うことはできないので、100パーセントできれば満点の5という評価があってもおかしくないと思う。逆に、100パーセントできても3点という評価をしたときに、4と5は達成できない評価点数になってしまう。</p> <p>私の感覚からすると、各委員の中で理想的な状態が5で、それに対してどの程度達成できたかという形で考えて頂くのが良いと思う。</p>
石田委員	<p>分かった。</p>
杉本委員	<p>集計結果表の見方について質問だが、ライフスタイルの変革への支援の取組内容の進捗度というのは、評価5が一人いたということか。</p>
渡辺会長	<p>そうだ。評価結果の分布を示している。</p>
杉本委員	<p>施策の有効性に関してはどう考えればよいのか。</p>
渡辺会長	<p>例えば、ごみを出さないライフスタイルの推進に向けて、取組内容がどれだけ重要かというのを評価して頂く。</p> <p>必要性がどれだけ高いか評価して頂ければよい。昨年度の結果を見ながら、評価を行う。施策については行政が評価するため、委員の皆さんは施策に対して取組内容がどの程度達成できたかを評価する。</p>
杉本委員	<p>ごみ対策課の評価理由は、どういうことを意味しているのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>進捗も効率性も担当レベルではAという評価をしているので、例えば、市報での周知というところについては、このまま推進をしていくということで、ごみ対策課の担当職員が評価している。</p>
岡山副会長	<p>非常に複雑であり、例えば1の(1)については対応する施策が全てであり、これが全て相まって取組内容1の(1)を進めた</p>

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	ということになる。主観による評価である。
杉本委員	取組内容と対応する施策が一対一対応していると評価しやすいが、ライフスタイル変革への支援は、広範な取組の結果になるので難しい。計画項目の内容は実施計画の施策項目だ。それに関して評価することになる。
渡辺会長	評価数字が良いと、良い評価だと考えられるのか。
林委員	行政側としては、評価が良ければ、そのまま継続していけば良いということになるだろう。評価が低ければ、何か改善する必要があるだろうとか、施策の有効性の部分が低ければ、それは廃止とか、高ければさらに拡大して施策を考える参考にしたいという意図ではないかと考える。
小野ごみ対策課長	昨年、皆さんと議論したが、大きな変更はできなかった。市職員の自己評価は非常に重要である。その中身を審議会委員が議論して、次の計画に盛り込んでいくプロセスのほうが重要なのではないか。やった項目とやらなかった項目を一律に評価するのは難しい。複数の施策を包括的に評価することは難しく、計画項目を1件ずつ並べて評価するという方法には無理があると感じる。特に施策の有効性について評価することは、色々な施策が入っているためひとくくりに評価することはできない。行政は点数を出してどう使うのか。次からは何らかの方策を考えるべきだ。
石田委員	皆さんからの評価はきちんと受け止める。行政の事業であるため、たとえ評価が低かったとしても市としてやらなければならない事業もある。また、評価が高かったとしても、やる必要性がないという判断をするものはある。進捗度と有効性の兼ね合いもあるため、この評価に併せて30年度の評価方法についても考えて頂ければと思う。
	行政の評価が正しいかどうかということで見るとすれば、意見を出す意味があると思う。しかし、行政の評価をある程度参考にしながら、自分のイメージの平均値を出して、1から5の評価を書くようにと言われていると思う。委員が評価したものは、単なる参考意見としては良いが、有効に活かせるとは感じられない。どの施策が進捗度、有効性が高いかという評価の方が、活か

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	しようがあるのではないか。 前回、同様のご意見を頂いた。P D C Aサイクルを実施していく中で、自己評価の部分については、大切にしていかなければならないと考えている。それに併せて、審議会の評価を計画にどう反映させていくかということについて課題は残っている。
林委員	自己評価がCだったものをどうやったら翌年Aにできるかという議論を重点的にすべきである。市職員がデータ整理することに時間を費やすよりも、行政の自己評価に対する意見を出して貰って、まとめた方がいいのではないか。
小野ごみ対策課長	自己評価というのは、課としての評価ではなく、事業担当者としての評価だ。その点を加味してご意見を頂きたい。
林委員	担当者の評価であるならば一層信憑性がある。
岡山副会長	前年度実績結果を見ると、1のところは対応する施策が多いので自ずとコメントも多い。こういう指標で見たときに、コメントが出てくる方が有効である。逆に2はごみ処理事業そのものなので判定不能な状態が増えてくる。市民が私たちの目線として評価ができるのは、1の部分だけであり、2以降は自己評価だけでも良いと思っている。しかし、その部分は進捗も効率も全部Aかと思うとそうではない。石田委員の意見と同じく、やっていけばAで良いのではないかと思う。審議会の評価は、施策の展開1の部分を主観の上で評価するという事で良いと思う。
小野ごみ対策課長	事務局としても、施策の展開の1が、皆さんに理解して頂きたい最も重要な部分であると考えている。昨年も同様のご意見を頂いている。その部分も併せて、5月31日までにごみ対策課までご意見を頂ければと思う。評価シートの様式決定後、皆さんに私たちの自己評価を公表させて頂く。 次回審議会で評価に関して意見交換をして頂くことになるため、その際に、来年度の評価に向けてご意見も頂ければと考えている。
渡辺会長	それでは、忌憚のないご意見を事務局までお願いしたい。 次第のその他だが、未活用資源の有効利用方策の調査・研究に

(審議過程) 主な発言等

	<p>関する小委員会の追加指名について、岸野委員から小委員会への参加希望があったので、小金井市廃棄物減量等推進審議会第6条第2項の規定に基づき専門委員会委員に指名した。平成29年5月24日付けで新たに委員となり、最新の小委員会名簿を机上に配布している。</p> <p>これを以て審議会を終了する。</p>
--	--